

9 / 1 Fri 2 Sat 3 Sun



Hakodate

開催記録



Kobe



Yokohama

語り合おう港への想い



Niigata



Nagasaki



開港5都市 景観まちづくり会議2017新潟大会

◆日程/2017年9月1日(金)・2日(土)・3日(日)

◆会場/新潟日報メディアシップ ほか市内会場

開港5都市景観まちづくり会議2017新潟大会

語り合おう港への想い

～歴史と未来がつながる開港150周年～

ごあいさつ

平成29年9月1日から3日にかけて「開港5都市景観まちづくり会議2017新潟大会」を開催しました。期間中は天候にも恵まれ、盛況のうちに終えることができましたことを遠方からご参加いただいた皆様、ご協力いただいた関係者のみなさまに心から感謝とお礼を申し上げます。

今回の新潟大会は「語り合おう港への想い ～歴史と未来がつながる開港150周年～」をテーマに掲げ、前回大会の若者による企画を引継ぎつつ、一般市民の方から公募をし、大会の企画運営に参加してもらうことで、よりこの活動を市民に開けたものとすることができました。

来年の函館大会でもみなさまとお会いできることを楽しみにしています。

開港5都市景観まちづくり会議2017新潟大会実行委員会
実行委員長 肥田野 正明

INDEX

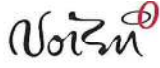
プログラム	1
全体会議Ⅰ	2
ウェルカムパーティー	10
分科会1	12
分科会2	14
分科会3	16
分科会4	18
オプション企画1	20
オプション企画2	21
FG会議	22
行政会議／代表者会議／全体会議Ⅱ	23
大会アピール	24
公募委員インタビュー	25
沿革	26
規約	27
大会歌／大会シンボルマーク	28
参加団体／主催／構成団体／後援	29

9/1 金曜日 全体会議Ⅰ

14:00～17:00

全体会議Ⅰ

会場／新潟日報メディアシップ 2階日報ホール 新潟市中央区万代3-1-1

◎開会式 ◎各都市の活動報告 ◎Noismによる特別パフォーマンス  「砕波」

◎基調講演「砂丘のある港町・新潟～ブラタモリ新潟を深く掘る」

ト部 厚志氏 (新潟大学災害・復興科学研究所准教授) 野内 隆裕氏 (路地連新潟メンバー代表)

18:00～20:00

ウェルカムパーティー

会場／NSTゆめテラス 新潟市中央区八千代2-3-1

9/2 土曜日 各分科会

分科会1

五港のなかの新潟

～開港と文化開化の足跡をたどる～

集合／新潟市役所本館玄関前
時間／8:30～16:30



分科会2

港が育んだ坂口安吾

～日満航路と新潟～

集合／ホテルオークラ新潟ロビー
時間／9:30～16:30



分科会3

「古くて新しい」を知る

～沼垂地区に学ぶ、まちの
ブランディングと再生ストーリー～

集合／ホテルオークラ新潟ロビー
時間／8:30～16:00



分科会4

川と湊がつくる景観

～川湊の歴史をたどるウォーキング～

集合／新潟日報メディアシップそらの広場(展望フロア)
時間／9:30～16:30



18:00～21:00

オプション企画

企画1／もっとおいしい ディープな新潟

企画2／FGT48 ～Future Generation 定員48名～

9/3 日曜日 全体会議Ⅱ

9:20～9:50 行政会議

会場／新潟商工会議所会議室
新潟市中央区万代島5番1号 7階

9:30～10:30

FG(若者)会議

会場／Sea Point Niigata 新潟市中央区関屋1-24

10:00～10:50 代表者会議

会場／新潟商工会議所会議室
新潟市中央区万代島5番1号 7階

11:00～12:00

全体会議Ⅱ

会場／Befcolばかうけ展望室
新潟市中央区万代島5番1号

◎分科会報告 ◎大会宣言 ◎大会旗の引き継ぎ

◎次期開催都市(函館市)挨拶 ◎主催者謝辞



Program

- 開会
- 主催者あいさつ
- 新潟市長あいさつ
- 特別パフォーマンス
- 各都市活動報告
 - 函館市
 - 横浜市
 - 神戸市
 - 長崎市
 - 新潟市
- 休憩
- 基調講演
 - ト部 厚志氏
 - 野内 隆裕氏
- 閉会

主催者あいさつ

肥田野 正明

これまでほかの4都市をみてきましたが、西洋文化は素晴らしいものがあり、都市毎に違った魅力にあふれています。しかも、共通して外から受け入れるおもてなしの文化を感じました。新潟は川湊というのが大きな特徴で、水に身近に触れられる環境に育っているということを再発見しました。国交省と新潟市のミズベリングの取り組み、開港150周年に向けたハード整備、また本日講演の野内さんをはじめとするまちあるきなどを通じて、いままで意識してこなかった「港」というものが徐々に新潟市民のシビックプライドとして浸透してきているのではないかと思います。長崎大会から次世代というキーワードが投げかけられ、今大会でも引き続き若者会議を設けて、次世代につながる景観まちづくりを紡いでいきます。3日間長丁場になりますが、新潟を楽しんでいってください。

新潟市長あいさつ

篠田 昭

80万市民を代表して歓迎の挨拶をいたします。新潟は2019年1月1日に開港150周年を迎えるためイベントとしてこの大会を位置づけさせていただきました。新潟市ではこれをもっとアピールするために志民委員会を立ち上げましたが、現在では、市民が新潟を港と認識できている率が低いということがわかりました。これについてはのびしろとらえて進めていきたいと思っています。一方で新潟は文化を創造する力が極めて強い、と実感できるようになってきています。今年の京都で開催された東アジア文化都市サミットでは、文化の力、地方都市同士のつながりで日中韓の関係を改善しようとしています。そうした中で都市同士の交流が重要だと考えております。我々日本国内においてもこの開港5都市のつながりは非常にありがたいと思っています。ほかの4港からも学ばせていただくところも多いかと思います。これからみていただくNoismのダンスも新潟の文化のひとつです。この3日間でぜひとも新潟の文化を創造する力をみていただき、感じる場所があればぜひアドバイスいただき学ばせていただければと思います。

Noism

■上映作品

「碎波」(新作)

演出振付:金森 穰

衣裳:堂本 教子

出演:Noism 1 = 井関 佐和子

中川 賢

池ヶ谷 奏

吉崎 裕哉

浅海 侑加

チャン・シャンユー

坂田 尚也

井本 星那

鳥羽 絢美*

西岡 ひなの*

(*準メンバー)

特別パフォーマンス

Noism

りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館を拠点に活動する日本初の劇場専属舞踊団。演出振付家・舞踊家の金森穰がりゅーとびあ舞踊部門芸術監督に就任したことにより2004年に設立。プロフェッショナルカンパニー Noism1(ノイズムワン)と研修生カンパニー Noism2(ノイズムツー)がある。新潟を拠点に、Noism1はモスクワ・チェホフ国際演劇祭との共同制作や、サイトウ・キネン・フェスティバル松本への出演など、国内外各地で多岐に渡って活動。Noism2は県内で開催されるさまざまなイベントにも出演し、ローカルな活動を展開している。舞踊家の圧倒的な身体と鋭い問題意識に裏打ちされた作品、新潟から世界を見据えたカンパニー活動は、21世紀日本の新たな劇場文化モデルとして各方面から注目を集めている。

www.noism.jp



全体会議 会場写真



各都市活動報告



函館の歴史的風土を守る会
佐々木 馨さま

【函館市】

函館市からは4つの取り組みを紹介させていただきます。

まず1つ目は市内で景観やまちづくりに関する29団体がつどい、「函館景観まちづくり協議会」を8月29日に設立し、横の連携がとれるようになったことです。この協議会が中心となって来年度の開港5都市会議を進めていくほか、日常的なまちづくり活動にも役立てていきます。

2つ目は景観行政の検証です。函館市では、古い歴史を持つ西部地区を対象に昭和63年に「函館市西部地区歴史的景観条例」を制定し、その後、平成7年に「函館市都市景観条例」に移行しました。まもなく景観条例制定から30年の節目を迎えるにあたり、社会的背景が変化しておりますので、これまでの景観行政の検証を現在、進めています。

3つ目は函館湾岸コンクリート物語です。函館は大火に見舞われたため、コンクリート造の寺院等の建築物が多く、函館の町並みの一部となっており、このコンクリート文化に光を当てた取り組みとして、2年前に立ち上がったプロジェクトで、これから本格的に活動を始めていきます。

4つ目は3月に国の指定を受けた景観まちづくり刷新モデル地区です。3年で約8億円の補助を活用しながら整備を進めていく予定です。

来年度は函館市が開港5都市会議の会場です。昨年は新幹線も開業し、東京から4時間で来られるようになりました。来年は皆様をお待ちしております。

【横浜市】

今年横浜は開港158周年で、2020年の新庁舎移転に向けて工事を始めているところです。地下2階地上35階160mの高さです。新市庁舎は北仲地区で同じ地区にアパリゾートも建設中のほか数棟建設中です。ほかにも旧市庁舎、横浜スタジアム、IR等の新山下地区などは開発が続いております。

1867年3月に誕生して150周年を迎える馬車道ですが、大きく分けて2回のまちづくりがされています。1973年、都心型モデル化商店街第1号の指定を受け、「太陽と緑のあるまち馬車道赤レンガ通り」を基本コンセプトに着手しました。1975年にまちづくり協定書を締結し、1976年に現在の町並みの基本となるデザインが完成しました。

1993年から2003年までには馬車道ライブタウン事業に取り組みしました。ガス灯風の街路灯を本物のガス灯にしたり、レンガ調のタイルだったものを本物のレンガにしたりという事業を進めました。また時代の変化に伴い、紳士協定を2008年に地区計画として横浜市に認定していただきました。地域まちづくり条例によって馬車道商店街協同組合が地区計画のルールを運用しています。それと同じ時期に関内地区都市景観協議地区が定められて、地元と行政が共同してまちづくりや都市景観協議を進めることを明確にしました。馬車道通りは歴史的にも住民、行政、まちの人がその趣旨をよく理解して、まちについて協議しながらまちづくりを進めています。

馬車道は今年で150周年を迎えますが、東京大学の西村幸夫先生をお呼びして、国吉さん、NHKアナウンサー渡邊あゆみさんも交えて、「馬車道150周年記念シンポジウム 次代へ、馬車道を活かす」が開催されました。10月31日、ガスの日にはガスライトフェスティバルを皮切りに、150周年記念馬車道まつりを開催します。また、これとは別にガス灯プロムナードを作るために実行委員も立ち上げています。平成25年に万国橋のところに18基新設されており、残るのは海岸通りか新港通りとなっています。それが終われば、馬車道から山下公園までのガス灯プロムナード整備が終わります。こちらも楽しみにいただければと思います。

横浜は北仲地区、みなとみらい、新山下地区と横に浜が伸びていますが、馬車道は陸地の方に伸びる地区です。横浜の港の結節点「タテハマ」として機能できるのではないかと考えています。

【神戸市】

神戸市景観形成市民団体連絡協議会会長を務めています。神戸市では今年度150年記念事業と都心エリア再整備をしておりますので、そちらを紹介させていただきます。

神戸港は1868年1月1日に開港、今年150年を迎えさまざまな事業を行っております。その中でメリケンパークをリニューアルオープンしました。明治元年にアメリカ領事館前の木造棧橋が作られて以降、市民に愛されながら利用されてきました。開港120年にメリケンパークとしてオープンしましたが、30年たった開港150年を契機にリニューアルオープンしております。海と空が感じられる開放的なオープン空間とライトアップがされております。ライトアップを実施してから夜の散策の方が非常に多くなっております。

「BE KOBE」というモニュメントも設置されフォトスポットになっています。こうべ食の博覧会、KOBE芸術祭といった事業も行っております。



馬車道商店街協同組合
山口 和昭さま



もとまちハーバー懇談会
片山 泰造さま

神戸の都心の目指す姿として「心地よいデザイン」「出会い、イノベーション、そして文化」「しなやかで強いインフラ」という3つの柱を掲げています。また、都心に備える8つの軸として「景観」「にぎわい」「生活・居住」「産業」「観光・文化」「防災」「環境・エネルギー」「交通」をかかげています。

神戸市の中心、三宮周辺地区では再開発による整備をしています。公共交通優先のために、車線を大きく減少させることとしています。これにより新たなにぎわい空間を作り出しています。また、高齢者・子供に使ってもらえるベンチ等も整備しております。

最後に神戸市景観形成市民団体連絡協議会は12団体により構成されています。

【長崎市】

昨年の長崎大会では「継承と発展、次の世代のまちづくり」ということで若者が多く関わらせてもらいました。今回の発表では若者と地域と市が協力した事例を4つ報告したいと思います。「和」「華」「蘭」「平和」という4つの地域です。「和」ということで長崎唯一の城下町の「深堀地区」では、県警跡地の活用を地域の方々と大学の学生で協力してワークショップを行いました。長崎大学・九州大学では模型を作成してもらい、ワークショップを全6回進めました。次に「華」の「十善寺地区」では中国の唐人屋敷があり、斜面地があります。入口出口がわかりにくいという問題がありましたので、入口の2車線化、電柱の地中化を行いました。また、まちづくり情報センターや、斜面に電動手すりも設置されています。「蘭」の「南山手、東山手地区」では若者の空き家活用、居住地まつりの開催に取り組んでいます。「つくる邸」という斜面地の上にある空き家を改修して、ここに私が住みながらコミュニティスペースを運営しています。さらに民間の動きとして12A番館という女性専用のシェアハウスがオープンしました。さまざまな居住地の取り組みに対して、地元では社会実験のフィールドとして活用してもらいたいという意向もあり若者がどんどんイベントを開催しています。最後は「平和地区」です。平和公園、浦上天主堂の全体として見せる形となっていないということで、学生が模型を作って住民の方にみていただいております。長崎では継承と発展という形で、上の世代(レジェンド)の方の力を借りながらまちづくりを進めています。私は大分出身で単純に南山手景観が良いからという理由で長崎に入ってきましたが、活動を支援してもらい、「見た目の景観」だけでなく「まちに住む人の想い」を継承しながら活動を進めています。最後に長崎市も景観まちづくり刷新モデル地区に選ばれました。今後は夜間景観、平和に関する景観を整備していく予定です。



斜面地・空き家活用団体つくる
岩本 諭さま



NPO法人
新潟エキナ会
肥田野 正明

【新潟市】

昨年は長崎大会でミスベリングの話をしました。今回はアートのまちづくり、ソフトのことを話します。まちごと美術館という事業です。入ってきた1階のエントランスに飾ってある絵は障がい者の方のアートなんですね。これを地域の人が1回3000円で借りてその一部が障がい者の方の収入になるという、継続可能な事業としてしています。

いまでは観光施設、公共施設でいろいろなアートが展示されています。昨年の7月に古町の飲食店からスタートしまして、金融機関や工事現場、スーパー銭湯などで飾っていただいております。また、モスバーガーさんと連携しまして、新潟県内22店舗で設置してもらおう予定です。また、日産さんとも協力して、車の一部にアートを入れていただいたり、新潟駅でもJRさんと連携させていただいております。また、今年も当景観形成市民団体協議会に参加している花絵プロジェクトさんと連携して障がいのある人もない人も連携して花絵のアートを作成しました。また、古町という商店街で障がい者アートフラッグをつくるということでRICOH JAPANさんと連携して商店街にアートを出させてもらいました。いまでは新潟市に42の美術館を開くことができました。

また、フランスと連携して、アクセシビリティをテーマに、アートを通じて障がい者の方がまちに出てきやすくなる。という提案をしています。最初はアートの交流だったものが、次第にヒトの交流につながる。そんな動きができればと考えております。

新潟市の総合学習も行っています。総合学習では学校から飛び出して作家さんと交流をしてもらい、作家さんの絵、作家さん自身の魅力について、子供たちから自作のキャプションを作成してもらって展示してもらいます。今まで展示されていたものを見るだけであつたのが、自分で表現したものを地域の中で見てもらうということで、理解度・学習の定着率が90%を超えるという説もありますので、こうした教育効果も期待しています。

まとめたビジョンがこちらです。

- ◎アートがあるからまちに出かける機会が増えた「行きたくなるまち」
- ◎アートがあるから利用しやすいお店ができた「利用しやすい環境」
- ◎「継続的に入る収入」という3点です。

「砂丘のある港町・新潟～プラタモリ新潟を深く掘る」

ト部 厚志氏 (新潟大学災害・復興科学研究所准教授)

野内 隆裕氏 (路地連新潟メンバー代表)

基調講演は、平日の昼間に行われますので、一般参加希望者が多く集めるにはどうするかで、議論しました。人気番組である「プラタモリ」にあやかり、プラタモリを深掘りする講演に決まり、地形の専門家であるト部新潟大准教授と番組での案内人である野内さんから快諾を受けました。日本一の大河である越後平野を流れる信濃川と日本有数の水量を誇る阿賀野川が日本海に出会う砂丘地に位置している新潟港は、開港5都市の中で異色です。川の舟運と海の高運の結節点である新潟港は、地形ゆえに物流の大結節点です。



ト部 厚志氏 (新潟大学災害・復興科学研究所准教授)

普段は理学部で液状化・津波というのを教えていますので、まちづくりというのはお話できるところが少ないですが、プラタモリつながりで監修を行っておりましたので、そんな話をさせていただきます。当日放送を見てみると、タモリさんや全国の方、東京の方々は新潟のこういうところが不思議に感じるのかというところが、暮らしている我々では気が付かなかった地形・地質の面白ところを紹介しているのではないかなと思います。

さて、「砂丘のある港町」、「新潟市民も知らない新潟砂丘」ということですが、うちの学生に聞いても大学が砂丘の上に立っているということをほとんど知らないですし、「どこに砂があるんですか」と言われます。砂丘であることを知らない人がほとんどです。さすがの砂丘地でも我々は住まなければいけませんので、木を植えたりいろいろ砂が飛ばないように固定していますので、砂だらけになるということはないんですが、最近プラタモリがいろんなところで深掘りしていただいておりますので、今回新潟にも光を当ててこうしてお話させていただいております。

新潟と他の4都市との違い、特徴は川の港であり、平野部にあるということです。平野部のど真ん中にあります。他の4港の昔と今を地形図で比べてみると、ほとんど変化がないことが分かるのですが、新潟に至っては、砂丘がいくつか発達しながら、日本海を埋めて現在の位置まで平野ができています。これがほかの開港都市にはない新潟の特徴です。また、川湊では河口にまちがあるため「かわがけ」といって出口がせまいと川が暴れます。なぜ川掛けをほっとしているかというと、水運のまちですので、水量を落とすたくないという意図があります。水量が減ると川が浅くなってしまいますので、川幅を制御して水深を確保するためにまちをつくってきた歴史があります。また、1883年に津波が起きた際には、港を利用して津波がわざわざ被害を確認しにきたという記録も残っています。

ちなみに砂丘というと鳥取砂丘をイメージすると思いますが、鳥取砂丘の場合は古い地質は動かず、そこに川が運んできた砂が積もるといった日本海側では少し特殊な事例です。新潟の場合は少し違って、内陸から砂丘が少しずつ、前へ前へと移動する形となっています。日本海側は金沢、柏崎、庄内等、多くの場合が同じスタイルとなっていて、実はこちらが一般的な事例です。

砂丘列ということで、海岸があって、砂があって、冬の風がふいて砂丘ができるので、砂丘列があったところは以前は海岸線であったところということです。さらに西の方は潟ばかりで水はけが悪いところがあります。新潟市民も砂が埋まって市街地になっているので、砂丘とわからないで、「なんか高くなっているな」というぐらいで、坂道の上だけと、それが砂丘とはわかっていない方がほとんどです。また海沿いには松林というイメージが新潟市民にはありますが、これは砂を食い止めるために植えたもので、明治より前の地図には載ってなくて、砂が作りたい地形を作っていました。

さらに、西の方では砂丘のデコボコを、たばこ、スイカ、大根の畑やワイナリーとして利用しています。プラタモリでは最初にタモリさんに田植えをさせようなんて話が出ていましたが、ロケのときにはすでに時期が悪く実現はしませんでした。ちなみに私もロケ日にはスケジュールを空けていたのですが2週間前に来なくてよいといわれて、当日呼ばれたのが野内さんという、そんな裏話もありました。

新潟市内の砂丘地は「日本最大級」という言い方をしているんですが、長さ70km、奥行10kmの大きさです。最初の砂丘が内陸、さらにいくつか砂丘ができて、今の海岸線の砂丘ができています。このようにできているのは日本でもここだけと言えます。また、砂丘は遺跡が発掘されるところや、砂丘間の泥の年代でも特定しています。そこから新潟の砂丘の年代はおおまかに3つの年代に分類されています。

海に面しているところは2万年前の氷河期の時には海が80m下のところにあるので、そのレベルで考えてみます。当時のレベルで考えてみると、佐渡まではいかないが、もっと沖合までつながっていました。地質の調査により7000年前位のこのような状況が分かりました。さらに海岸線が一度動きを止めると、砂がたまってきて、平野ができ、砂丘の細い列ができる。これを繰り返して2000年位前には今の地形になっていることが分かりました。それから古墳や古代の淳足柵(ぬたりのさく)といった遺構もできてきます。

ただし、新潟は排水不良による洪水や低湿地に悩まされてきましたので、それを克服するためにポンプで水を抜いたりして苦労しながら発展しています。こうした状況もあり災害にはすごく弱いんですね。しかし、それは変えられないので頑張っている。液状化なんかも比較的新しい出来事ですが、これも、埋め立てをしたところが被害を受けているということが地形・地質の観点からみればわかります。また、これほど砂に苦戦してきた新潟ですが、一部の海岸線では砂が足りなくなるという事態が起きています。これは海岸に突堤ができたことで、沿岸流が砂を運んでくれず、冬に海岸が削られる一方になってしまっているためです。このように、85年間経った今でも新潟は海岸防止工事を続け、砂と戦っています。

以上のように新潟の地形・地質をお話させていただきましたが、こうした情報を知ること、まちづくりのベースに置いておくことが重要です。新潟は砂地のまちであるということ、砂とともに生きていくということを念頭に置くことで、防災という観点をまちづくりに備えることができます。



野内 隆裕氏 (路地連新潟メンバー代表)

(プラタモリでは)ト部さんからお話いただいたパートは学芸員さんにやっていただいて、私のパートはマニア同士という感じでした。

新潟は簡単にいうと川が砂を運んで砂が巻き上げられてできる砂丘の町です。そこでまず、内陸について着目してもらって、亀田製菓に行きました。内陸10kmにある砂丘列です。地名に着目すると「山」とついているところは砂丘列で、プラタモリでは砂山というところに行きました。そこから、山のついた地名を辿りながらどんどん海岸に近づいていき、一番最後の砂丘から新潟を見てみようということで、タモリさんと日和山にさがり新潟の地形をみました。港に着目すると、江戸時代に河口に長岡藩の新潟町、新発田藩の沼垂町という二つの町がありまして川幅が広い時期がありました。もう少し海側にあったところから中洲に移転しているというわけですね。新潟町についてさらに深掘りすると、砂が運ばれて湊が浅くなり、引越して今のエリアになっています。信濃川の河口では、新潟の水深を維持するため、浚渫(しゅんせつ)船が24時間稼働しており、これもタモリさんに見てもらいました。

新潟の町並みには法則がありまして、川に並行な通り、川に直行する小路という二つの通りがあり、そこに船運のための堀があります。柳は堀の跡に植まっていますので、古町を歩いて柳を見た際にはそんなことも思い浮かべてください。番組では、さらに古町の路地を歩きました。花街の六軒小路、鍋茶屋、堀の跡、橋の跡、人情横丁では浜焼きを食べました。タモリさん目線で楽しんでもらっています。

今回タモリさんを案内したまちあるきのベースをつくった「路地連新潟」はまちあるきの仕組みをつくるグループでした。そこで新潟に今あるものに注目したところたどり着いたのが新潟の路地でした。堀はすでに私が生まれたときには埋まっていたので、語れないんですね。路地は今あるもので、かつ風景がいいということで、新潟さんと2007年から案内板を設置しました。路地の風景から歴史に興味を持ってもらえればという仕組みです。そこで路地を絵に描き、マップ・案内板を整備しました。2009年には古町編、次に下町編、さらに坂道編。このときに新潟に坂道があるということアピールして、坂道学会のタモリさんを呼ぼうという目論見もありました。さらに向かいの沼垂編、本日の会場でもある流作場編をつくりました。

7年間で6部作という事業でしたが、作った以上は活用してもらいたいというのもありました。では誰に利用してもらいたいかというと、先ほどの肥田野さんの話にも出ました次世代の人に学んで体験して楽しんでもらうきっかけとしてもらいたいと思いました。そうすると普段見向きもされない路地が新潟の総合学習として取り上げられるようになりました。また、小路を楽しんでもらおうと小路めぐりのスタンプラリーをやっています。さらに去年はポケモンGOでポケモンが出てくるポケスポットになったり、新潟のRYUTistというアイドルが、小路の歌を歌ってくれたりしています。

このように路地マップをつくって路地連新潟は役目を終えるんですが、せっかくこのマップをつくったので路地連はさらにこれを活用するグループとなりました。そこで路地サミットを新潟に誘致しました。路地連新潟はFacebookで情報を公開しておりまして、路地サミットをきっかけに東京のスリパチ学会の皆川さんには毎年新潟に来ていただいております。また、三条市、新発田市、新潟市秋葉区新津、加茂市や酒田市にも足を運んで、ネットワークを広げています。

風景から歴史を知ってもらって、楽しんで活用する、まちなみ・地形を発信する。という取り組みに対して、2013年にはグッドデザイン大賞をいただきました。これについては、長崎のさるくが同賞をとっていた実績もあり、うちもいけるんじゃないかということで応募したところ評価していただいたという経緯もあるので、長崎の皆さんにはお礼を申し上げたいと思っていました。また、横浜のシティガイドさんとも交流させていただいています。新潟のシティガイドの名称は横浜を参考にさせてもらっているという、そんな面でも4港の皆さんとのつながりもあります。

江戸時代の港の話で、日和山、新潟砂丘の展望台、日和というのは北前船が出向するための気候をみるための場所です。北前船の寄港地には日和山があるものなんですが、新潟では日が当たらない状況になっていましたが、そこに光を当てて楽しみながら整備を進めてきました。新潟市、新潟大学、路地連で日和山委員会を組織しまして、整備の検討をしました。各々ができることをして今の形となりました。それに近接する空き地の部分を、私がカフェに整備しました。「日和山五合目」という名称で場所がわかるようになっています。ここまで整備できましたが、これはスタートに過ぎず、今後どのように活用していくかということになっています。

日和山は市民文化遺産にもなりましたし、地元の教科書にも載りました。また、日本文化遺産に指定された旧齋藤家別邸、旧小澤家住宅等は分科会のコースに入っています。残念ながら、日和山は今回の分科会のコースには入っていませんが、ぜひともいらっしやってください。

最後に旧齋藤家別邸近くの金井写真館近くに宣教師パームの石碑があります。イザベラ・バードはこの宣教師パームがいたところを見たいということで新潟に来たんですね。私としてはバードさんの足跡をたどるというのもライフワークとしていまして、また4港の方にもお邪魔したいと思っていますので、その際にはぜひよろしくお願ひします。

パネルディスカッション

(U: 卜部氏 N: 野内氏 S: 齋藤栄路)

S: 新潟市では水と土の芸術祭がありました。川と砂の芸術祭の方が盛り上がったのではないのでしょうか？

N: 水と土の芸術祭の際に毎回、まちあるきを頼まれますが、前回のときにあえて、水砂クエスチョンというのをやった。それは楽しんでもらえました。

S: 再来年2019年開港150周年を迎えますが、なぜ新潟の砂丘は日本最大級ということで最大と言いつつ切らないのでしょうか？

N: 少し遠慮しているところもあるのでしょうか…

U: 何をもちょう最大と言いつつ切らないかにもよるのではないのでしょうか？ N社の方はそこを限定するとまずいと気にしていました。

S: 新潟は70kmで、第2位が岩手で40kmで半分ですよ？

U: 長さで言うのか？高さで言うのか？というのがありますね。

S: 面積というか大きさをいけば日本最大と言いつついい気がするが、新潟らしくいつも一歩下がっている感じがしますね。

U: そうですね。メジャーな鳥取砂丘とは違ったタイプの砂丘なのですが、そこを新潟市民も気が付いていない。

S: 佐潟も日本最大級の砂丘湖といっているが、あれも日本最大ではないかと思いますが。

N: 砂丘の形の品評会になっていますね。

S: 異人池も砂丘湖になるのでしょうか？あれは掘ったところ水が出て異人池と命名したという物語がありますが…

U: あれはあくまで物語で地形的には以前から池がありました。

N: (プラタモリで)旧齋藤家別邸(が紹介されなかったのは)惜しかった。花街を案内するのに、私は齋藤家の方が地形が絡んでいたのが押したのですが、花街の中心の鍋茶屋が選ばれてしまった。私も今日は卜部先生の話聞いて、裏話が多くておもしろかったです。

U: 私には齋藤家の水溜りはどこから湧いてきたのか、ということを知ることができました。そのあとに砂丘を案内してくれ、教えてくれたんですね。N社の人はレンタカーも借りていなかったの、

しょうがないと乗せて案内したんですが、それで全部砂丘を案内して採択されたのが亀田だったんですね。

S: 私は沼垂の出身なのですが、あんなに海に近いところに酒造があると、地下水に海の水が入るんじゃないかと思うんですが、それも砂丘の地下水によるものなんでしょうか？

U: 今は砂丘を削っているのが小さいです、内野なんかもそうですが、地下水があるとその圧力で海水は入ってこれないので。

S: そういった意味では新潟のお酒は砂丘が作っているともいえるわけですね。砂丘は新潟にとって非常に大事なものであるということですね。最近越前浜に行く途中に海岸沿いを走りますが、砂丘を通ったサイクリング・ツーリングをしている人も多いためですね。

N: 先ほど紹介したRYUTISTはセカンドアルバムで「日本海夕日ライン」という曲を歌っています。地形目線でこれからもつくってほしいなと思いますけど、皆さん、開港5都市で結ばれてここに来てくれています。先ほどのように路地や地形でつながる人もいます。自分の街と同じものをみたり、あるいは自分の街との違いを楽しむ、これが人の交流する楽しみだなあと感じました。これを機に開港5港とも交流したいと思ひますし、他の4都市にもお邪魔したいなあと感じます。

S: そこに歴史を加えるとさらに深味を増すと思ひます。義経の生涯が「義経記」という本になっているんですが、新潟の越前浜の角田山の下の方に「判官舟かくし」という岩盤が露出しているすごい洞穴があるんですが、先に行くとも砂丘があって、「義経もここを通ったのか」と感じることが出来る。そういう歴史を付け加えると、もっと全国から人が来るかもしれないでしょうか。

N: 先人の足跡をたどることはとても大事で、バードの足跡は横浜に着いて、日光を通って、新潟の海岸の街をみて、中条の方から、上へ上がっていくわけですね。いままさくバードさんは着目されています。新潟では津川、沢海、新潟の街、中条でいえばバードがらみで案内できるようになってきているので、ぜひ来年、開港150周年のときにはバード目線でまちを歩くコースができて、そこが変わったものが残っているものを探すといいと思ひます。準備を進めているところです。

S: 先ほどのト部先生の話の中で、津波が起きた際に会津藩が最初に来たというお話でしたが、

U: 自分たちが使っている港の被害を見に来るといふことで、お殿様ではないんですけど、偉い人が見に来て、松ヶ崎のところで津波が何尺というのを記載して帰って行っています。新発田藩法治なんですけど、それくらい水運として福島とつながっていたということですね。

S: 私も会津に行ったときに、観光マップにも載っているニシンの山椒漬けというのがあったんですけど、北海道で獲れたニシンが新潟に渡って、そこから会津に流れてきて、それがいまや名物となっている。それくらい新潟の港は重要な役割を担っていたということなのかなと思ひました。

U: そうですね。それで米を積み替えて出していけないと会津の米の行きようがないですからね。

N: つながりはすごく大事で、新潟の開化歴史の大事な証拠として、新潟大学の病院があつた場所にあるということが、当時の施策的なところで、お雇い外国人が長崎などから集まって、ということがありました。そういう歴史を丁寧に拾って、伝えるような準備を、シティガイドさんも我々もやっていく必要があるのだと思ひます。港だけでなく、国立銀行として設立された第四銀行があることやイタリア軒、文京公園、白山公園といったいろんな要素があるので、そういったものを伝えていく必要があるのだと思ひます。



ウェルカムパーティー

会場:NSTゆめテラス 参加者:120名

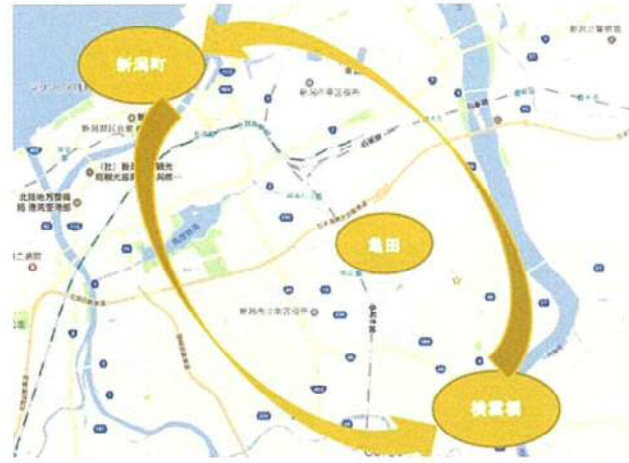
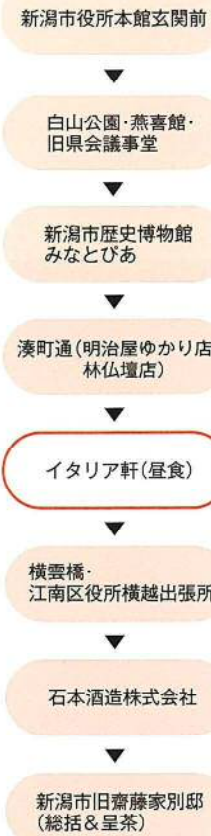
2017年9月1日(金)18:00からNST2F「ゆめてらす」にて本会議関係者約120名の方々が参加され盛大に行われました。会場は信濃川右岸に位置し、新潟流に言えば万代地区エリアから信濃川河口付近の新潟市街を見るというロケーション的にはベストな会場でした。

当日の料理、飲み物については他港の例も意識しながら、今回もこの時期の旬の食材と新潟ならではの定番メニューも入れました。また、新潟市内の酒蔵各社よりご提供いただき設置した日本酒コーナーは各都市からも好評だったようです。再会と初対面のごあいさつ等で話に夢中の皆様でしたが、料理プレートもキレイになっていたのほっとしました。

名司会進行とにいがた下駄総踊りのアトラクションも好評で、熱気あふれるオープンテラスの会場には時折信濃川から涼風も吹き込んで新潟情緒を演出してくれました。皆さんに感謝です。



分科会 1

五港のなかの新潟
～開港と文化開化の足跡をたどる～

分科会のねらい

分科会1を企画したねらいは、次の二点であった。第一に、新潟に遺されている幕末・明治時代の開港や文明開化に関わる文化遺産を巡ることを通して、新潟と函館・横浜・神戸・長崎の四港との関係を改めて体感していただくこと、第二に、今年是新潟市が政令指定都市に移行して10周年という節目の年であることから、狭義の旧新潟町にとどまらず、開港・文明開化に関わる歴史的な遺産を広範囲に探訪する、ということである。このような観点から、皆様のご協力を得て、コースを選定した。

分科会報告

1.「白山島」探訪

集合場所である新潟市役所本館は、明治34年(1901)に新潟県の主催で行われた「一府十一県連合共進会」という博覧会会場の跡地である。その後は、物産陳列場として利用されたのち、新潟県庁が建設され、平成元年(1989)に市役所となって現在に至っている。市役所の向かい側にある白山公園一帯は、信濃川と堀に囲まれ、「白山島」と呼ばれた場所である。江戸時代には、年貢米を入れておくための米蔵が立ち並んでいたが、明治6年、新潟県令の楠本正隆(肥前国(長崎県)大村藩士)によって、日本で最初の都市公園の一つである白山公園が建設された。また、公園に隣接して移築されている「燕喜館」は、新潟の廻船問屋である旧齋藤家の本宅の一部である。

こうした観点から「白山島」を探訪する試みは、県外の方々にはもちろん、県内からの参加者にとっても新鮮であったようである。その後、メンバーは白山神社大鳥居前からバスに乗車、旧新潟税関庁舎が建つ新潟市歴史博物館に向かった。

2.旧新潟税関庁舎と「運上所道」

旧新潟税関庁舎は、開港場としての新潟の整備に中心的な役割を果たした水野千波という外務官僚によって建てられたもので、その構造は、幕末に水野が神奈川奉行として再建に当たった横浜の運上所と同様のものである。

また、現在の湊町通(「運上所道」)は、廻船問屋が立ち並んでいた上大川前と運上所を結ぶ直線道路として水野によって造成された新道で、横浜の「馬車道」の新潟版ともいえるものである。湊町通では、北前船の時代の名残りをとどめ、特産の新潟米を使っ



白山公園前



旧県会議事堂



林仏壇店にて蒔絵体験



石本酒造を見学

た菓子「ゆかり」を製造している「明治屋ゆかり店」を見学して試食をさせていただき、さらに新潟の伝統工芸のお店「林仏壇店」で蒔絵の体験をさせていただいた。「ゆかり」を初めて食べた方々からは、「新潟のお土産の中で、本当に美味しいお菓子だ。」と絶賛され、多くの方がお土産に買い求めておられた。林仏壇店では、絵付けを体験し、真剣に、楽しく取り組んでいた。

蒔絵体験を終えた後、昼食会場であるホテルイタリア軒に移動した。ここは、イタリア人のピエトロ・ミリオレが開いた西洋料理店で、新潟県令の楠本正隆が援助をした店と伝えられている。昼食は、地元の旬の野菜をメインにした特別料理をご用意いただき、特に黒崎茶豆の冷製スープは殊に素晴らしいものであった。

昼食後、バスに乗車したメンバーは、江南区に移動した。信濃川と並ぶ大河である阿賀野川に明治8年に架けられた「横雲橋」は、楠本正隆が命名したもので、江南区の横越出張所には、楠本自筆の「横雲橋」の篇額が遺されている。横越出張所をあとにしたメンバーは、「越乃寒梅」の醸造元である石本酒造へと向かった。車窓から見える「大江山砂丘」は、海岸線に平行して砂丘列が走っており、途中、私が小学生の頃には6つの砂丘湖が点在していたことなどを説明した。石本酒造では、映像を用いた丁寧な御説明を受け、酒造りの奥深さを知ることができた。多くの種類の銘酒を試飲させていただき、メンバーも感動一入のひと時であった。また、石本家の庭園をはじめとする美しい景観を拝見させていただき、地元を根を張った素晴らしい酒蔵の心意気に胸を打たれた見学であった。さらに石本酒造のお酒を購入したい方々が多くおられたため、長谷友酒店に立ち寄り、総括の会場である旧齋藤家別邸へと向かった。

同所は、新潟の廻船問屋として財を成した齋藤家(三国屋)の四代・齋藤喜十郎が客をもてなす迎賓館として建てたもので、四季を通じて自然を生かした素晴らしい庭園は、国の名勝に指定されている。参加者からは、「新潟市には、こんなに素晴らしい所があるのか!」、「ぜひ、もう一度、今度は個人的に来てみたい!」といった喜びと絶賛の声があがり、この日のために新潟の老舗和菓子店の金巻屋さんにご用意いただいた銘菓「舟づと」と抹茶をいただきながら、分科会の総括を行った。

参加された方々からは、これまでにない新潟の魅力を発見することができた、という感想をいただいた。関係者の皆様の大きな御支援に深甚の謝意を表します。どうもありがとうございました。

(杉山 節子)



旧齋藤家別邸にて記念撮影

分科会 2

港が育んだ坂口安吾

～日満航路と新潟～

ホテルオークラ新潟ロビー

新潟教育会館(講演)

安吾 風の館(見学)

砂丘館(見学・昼食)

文学のまち歩き
(西海岸～西大畑)

旧齋藤家別邸(見学)

新潟港は、開港五都市の内、一番良港ではありません。それは、地形的なこと(川湊)に起因します。したがって、百五十年前に開港しながら外国人の居留地も無く、その為の洋館も四都市に比べて、殆ど無い。しかし、景観は、心象風景も含めて、歴史的・文学的な風景も重要だと思っています。その意味で、坂口安吾を通じて、新潟の風景をあぶりだしました。

港まちが育んだ坂口安吾一分科会に参加して

四都市に遅れて開港した新潟港だが、開港前の1852年に吉田松陰が新潟を訪れ、頻繁に出没する異国船への海防状況を視察しました。さらに歴史を遡れば国家成立前からの大陸との交流、政変や海難事故による異民族の渡来が続く。大陸に向かって広げた日本列島の扇の要に位置する新潟(越後)であればなんの不思議もありません。「墮落論」で一躍脚光を浴びた坂口安吾(作家)のふるさととは、古来、非合法に「開かれた港」でした。その権威に与しない反骨精神、合理精神、批判精神、自立精神、何よりも国家や民族を超えた歴史観と世界観は、この港町ゆえに育まれたといえるでしょう。

開港150周年を迎える新潟にとって、安吾の「開かれた精神」を通してふるさとを考える絶好の機会になることを確信した。既成概念にとらわれない柔軟かつ多様な思考、未知との遭遇に臆せず立ち向かうチャレンジ精神、風通しのいい自由闊達な言論空間―何物にも代えがたい宝物を育む港町の普遍的な価値を発信する大会に期待しています。

(第2分科会講師・永田 幸男)

新潟ソウルフード『イタリアン』

昼食にはちょっと遊び心を加えてみました。新潟の食と言えば思い浮かぶ美味しいごはんや魚介類。ですが、多くのお客様は既に体験済みと思われるし、夕食でもお楽しみになるはず。そこで思い切って新潟B級グルメの雄「イタリアン」(株式会社みかづき)を主役に抜擢。そこへ万代の人気店「ファームテーブルSUZU」(有限会社寿々瀧)から、季節の地元野菜を使ったサラダやお惣菜を彩り豊かに盛り合わせていただきました。

イタリアンは、お招きする各都市の人気料理やソウルフード(函館=シスコライス、横浜=麻婆豆腐、神戸=ぼっかけ焼きそば、長崎=ちゃんぽん)をイメージしてアレンジした当日限りのメニューを特別に開発していただきました。会場の「砂丘館」は、本来食事を提供する施設ではないため思うようにならないこともありました。みかづき的小林厚志営業部長、寿々瀧の高橋直樹マネージャーにご苦労いただいたお蔭で、ご参加いただいたお客様のお土産話しのひとつとしてお楽しみいただけたものと思います。

(高木 伸浩)



左、講師の永田幸男氏



風の館学芸員、岩田多佳子氏が解説する



風の館周辺を歩く



昼食会場、砂丘館にて



どっぺり坂



旧異人池跡



坂口安吾生誕碑前で坂口綱男氏の解説

「安吾のいた風景」を巡る

「安吾 風の館」館長 坂口 綱男

2017年「開港5都市景観まちづくり会議」新潟のオプション企画の1つとして「港が育んだ坂口安吾」と題し、旧市長公舎である「安吾 風の館」を起点に坂口安吾が生まれ思春期を送った新潟の街を散策しました。

少年の安吾が駆け抜けた、路地や海沿いの松林などを当時の写真ご覧いただき、安吾作品の一部を紹介しながら、実際に歩いたのですが、過去と現在が比較され、時に交錯するようだったと興味をもっていただけたようでした。それぞれの地で景観まちづくりに参画されていらっしゃる方々だけに、各地の魅力や特色はもちろんのこと、それをどのように伝えるかにより関心が深いように感じました。

ゴールとなる砂丘館では、開港5都市の皆さんと食事をしながらの歓談で、直接各地のアピールポイントやそれを生かす取り組みや企画を伺うことができました。今後も新潟の魅力として、異人池周辺の町並みや坂口安吾をいかに紹介し、観光に結びつけていくかをあらためて考えさせられた一日でもありました。



オプションツアーで万代シテイチームがご案内したのは、流作場五差路から沼垂方面に少し入った「天ぶらはせ川」。揚げたての天ぶらが一品ずつ提供されるスタイルで、ご主人から素材やおすすめの食べ方の説明を頂いて、5港の皆さまとL字カウンターを囲みながら、食談義、街談義に花を咲かせました。(コーディネーターの齋藤正行さんからは「無愛想なご主人」と事前に聞いておりましたが、全くそんなことは無く、優しく丁寧な方でした。)最後は美味しい天茶漬けを頂き、来年函館での再会を祈りながら、お開きとなりました。

(田中 栄太郎)

「古くて新しい」を知る

～沼垂地区に学ぶ、まちのブランディングと再生ストーリー～

ホテルオークラ新潟ロビー

沼垂テラス地区
(トークセッション)

沼垂テラス地区
(カラーウォッチング)

大佐渡たむら(昼食)

峰村醸造・今代司酒造見学
(試飲・試食あり)

大佐渡たむら
(ワークショップ)

◆ パネリスト
(中)株式会社和僑商店
代表取締役社長 葉葦 昌幸氏
(左)株式会社テラスオフィス
代表取締役 田村 寛氏

◆ コーディネーター
(右)大会実行委員長 肥田野 正明

日本一の大河・信濃川の河口に程近い沼垂地区。江戸時代、新潟湊が北前船の寄港地として隆盛を誇っていた頃、積出港として大いに繁栄した沼垂地区も時代の波には抗えず、商店街はシャッター街となっていました。

しかし近年、沼垂は再び若者を中心に注目される地区として復活を遂げています。分科会3では「古くて新しい」をテーマに、この沼垂地区を舞台にフィールドワークとワークショップを行いました。地域の財産の活かし方、地域を巻き込んだのブランディング戦略を沼垂地区復活立役者から学ぶとともに、カラーウォッチングという手法を用いながら街歩きを行い「色彩環境」という視点で景観について考えました。



トークセッション

午前中は、沼垂テラス商店街を注目の町として復活させ地域再生大賞で準大賞に輝いた田村寛氏と、今代司酒造、峰村商店をリブランディングし、沼垂を「発酵のまち」として蘇らせた葉葦昌幸氏をパネリストとしてお招きし、本大会実行委員長肥田野正明のコーディネートで「地域の財産を活かしたブランディング戦略とまちづくり」をテーマにトークセッションを開催しました。

田村社長からは自分が生まれ、子どもが育つ地域を誇れるものになりたいという想いが原動力となり、長屋を活かした町づくりをすすめていることや、出展希望者が続出する中で、沼垂テラスの価値を持続するための意識を統一することの重要性を話していただきました。

葉葦社長からは、見学に非常に都合が良い新潟駅に近い立地は、自社だけでなく新潟の日本酒のファン作りの役割も担う今のブランディング事業について、「伝統を今のかたちに」という企業理念を交えてお話いただきました。

ファンを作るためには、ここでしかできない体験をいかに創出するかがポイントであるということが、二人のパネリストの共通の意見として挙げられました。

また、参加者からは行政との取り組み方や、初期に掛けた金額などの質問が上がり、まちづくりについて活発な議論が交わされました。



沼垂テラス商店街をまちあるき



各自がそれぞれの視点でまちを散策



見本帳を使ってカラーウォッチング



沼垂テラス商店街の裏側の寺町通り



今代司酒造を見学



峰村醸造を見学



古地図も交えた説明に興味深く聞き入る参加者

カラーウォッチング

「寺町通り」としても有名な沼垂テラスは、両脇に伝統的な寺が並んでいます。参加者は、あらかじめ配布された「色彩印象」や「調和」「経年変化」などのポイントが記されたシートと色見本帳を片手に、「色彩環境」という視点から、この寺町通りと沼垂テラス商店街をフィールドにカラーウォッチングを行いました。

沼垂散策

■今代司酒造

創業250年を誇る酒蔵。「古と今をむすぶ」をコンセプトに様々な商品を開発、人気の「錦鯉」は世界の様々な国でデザイン賞を受賞しています。案内役は九代目・山本吉太郎さん。詳しく丁寧なご説明を頂きました。展示コーナーでは美しく陳列された商品の隣に昔の看板、酒造りで使用した道具など時代を感じさせる物も並べられており、インスタ映えを意識した見学コースでした。

試飲の時間が少々短く、参加者は未練たっぷり会場を後に。

■峰村醸造工場見学

最盛期は40以上の醸造蔵が軒を連ねていた沼垂地区で、明治38年から続く老舗味噌醸造。「江戸後期～明治初期に建てられた土蔵」と「大正時代に建てられた2Fに御座敷のある土蔵」という二つの歴史的建造物を曳家で保存し、リノベーションした峰村醸造は、まさに「伝統を今のかたちに」を具現した佇まいでした。

工場見学では、1万人以上を集めるというイベントの紹介や古地図を交えた地域の歴史も説明いただき、参加者は興味深く聞き入っていました。

その他、ゲストハウス「Nari」、醸造場を併設する「沼垂ビール」、市民団体が開設した多目的施設「しんご屋」などを見学しました。また現在はバイパスになっている「栗ノ木川」に直交する様に小路がつくられた沼垂地区。各小路には前日講演を行って頂いた野内隆裕さんの作成した「小路解説板」が設置されており、参加して頂いた方々は、都度々々足を止め写真に収めていました。

ワークショップ・発表

新潟の名産物・きんぴら団子と本州北限の茶所・村上産の水出し茶を楽しみながら、カラーウォッチングの結果などを元に、4チームに別れディスカッションを行ないました。沼垂テラスの優れた点、気になった点などを通じ、「古くて新しい」景観について考えました。若い人が魅力と感じている「古さ」。しかし、手を加えず、甘えているだけでは、いずれ朽ちていくだけ。いかに「古さ」を活かす演出が重要であるという意見が多く聞かれました。また「景観」とはビジュアルだけのものではなく、そこには何かしらの体験を付加する必要がある。そして地域を活性化するためには若い人の参加、そして地域の人の地域への熱い想いが大切である、ということが参加者中で改めて認識されました。

(品田 泰)



カラーウォッチングの結果をワークショップで発表する様子

川と湊がつくる景観

～川湊の歴史をたどるウォーキング～

開港5港で唯一の川湊にいがた。分科会4は川の流れを辿りながら湊まちの歴史を学ぶまち歩き。湊とまちの発展に大きな影響を与えた信濃川を中心に、川や堀が作り上げた「湊まちにいがた」の景観を様々な角度から確認しました。

まち歩きの集合場所は新潟日報メディアシップ20階の展望廊「そらの広場」。信濃川と港、そして街の位置関係を確認してからスタートしました。

最初のポイントは流作場五差路。【写真①】130年ほど前に架けられた初代萬代橋の起点です。明治期の信濃川の川幅と萬代橋の長さを体感しました。次のポイント万代クロッシング(地下広場)は初代萬代橋の基礎杭が発掘された地点です。資料展示コーナーで萬代橋についての基礎知識を確認しました。

現在の萬代橋は3代目。今年で架橋88周年の米寿を迎えます。初代萬代橋の長さ比べることで、新潟が信濃川を埋め立てて広がったまちであることが分かります。また、3代目萬代橋の用、強、美を知ることで、架橋当時のまちづくりや景観に対する先人の思いを感じ取りました。【写真②】

萬代橋を挟む万代テラスとやすらぎ堤から水辺の景観を確認。また、信濃川の水辺を活用した「ミズベリング」の取り組みについて、新潟市の担当者からお話を伺いました。景観に配慮した飲食ブースを配置するなど工夫されています。【写真③】



⑦

新潟日報メディアシップ
そらの広場(展望フロア)

万代テラス

やすらぎ堤

人情横丁商店街

信濃川ウォーター
シャトル(昼食)

新潟市歴史博物館

旧小澤家住宅



①



②



③



④



⑤



⑥



⑧



⑨



⑩

信濃川を渡ってからは、市街地に残る川や堀の痕跡を辿りました。他門公園から鏡橋ポケットパークへと続く緩やかなカーブの通りは、信濃川から分かれ街なかに流れ込んでいた「他門川」の名残りです。【写真④】

他門川跡から少し入った人情横丁は、かつての「二番堀」の上に作られた商店街です。「浦安橋」はその二番堀を渡る橋でした。【写真⑤】ここでは、商店街の石山さんから横丁の歴史と浦安橋の遺構が見つかった経緯についてお話を伺いました。横丁の自由見学では「プラタモリ」で有名になった阿部さんの浜焼きも大人気でした。

午前のまち歩きを終え、萬代橋西詰から信濃川ウォーターシャトルに乗船。新潟の味がたくさん詰まった料亭のお弁当を食べながら、船上から信濃川と新潟西港の景観をチェックしました。また、信濃川ウォーターシャトルの栗原社長から、川を活かした公共交通と観光についてのお話も伺いました。【写真⑥】

信濃川ウォーターシャトルの特別クルーズを楽しんだ後は、みなとびあ船着き場へ上陸。【写真⑦】周辺には、2代目の市庁舎をイメージして作られた新潟市歴史博物館、開港当時の税関として唯一現存する旧新潟税関庁舎、昭和初期に建設された旧第四銀行住吉町支店などがあり、開港当時の景観の変遷を感じることができます。第四銀行はその名の通り日本で4番目に作られた銀行で、当時の新潟経済がいかに活発であったかが分かります。

みなとびあから午後のまち歩きをスタート。かつての「早川堀」跡を辿りますが、少し寄り道して湊稲荷神社へ。境内の「願掛け高麗犬」は、かつて花街の女性たちが願掛けをして回したと伝えられ、北前船で繁栄した新潟湊の歴史を伝えています。【写真⑧】

早川堀通りでは、住民と協働のまちづくりについて新潟市の担当者からお話を伺いました。地域住民と333回目の会議を重ね、「子供たちが自由に遊べる水路」を基本コンセプトに整備されたとのこと。災害時拠点エリアとして地下水をくみ上げる手押しポンプ、下水道直結の防災トイレ、かまど・収納ベンチも設置されています。【写真⑨】

まち歩きのゴールは北前船の館・旧小澤家住宅。小澤家は廻船問屋として栄え、新潟の当時の繁栄と町屋の特徴を今に伝える建物です。ボランティアガイドの皆さんから館内をご案内いただいた後、学芸員の方から北前船や外国船との交易についてお話を伺いました。【写真⑩】

開港5都市の皆さんに新潟の魅力を伝えるとともに、新潟市民の参加者の皆さんにも自分たちの街に関心を持ってもらうことができたと思います。暑い日差しの中5kmにも及ぶまち歩きにお付き合いいただいた参加者の皆さんに改めて感謝申し上げます。
(上杉 知之)

オプション企画-1

もっとおいしい ディープな新潟

観光ガイドにも載っていない、歩いているだけでは見つからない、そんな地元に愛されるディープなお店にまちづくりのメンバーがお連れしました。各会場での実際の様子はご想像にお任せします。



◎魚介屋 玄徳
新潟市中央区南浜通1番町373-3
tel. 025-229-5056



◎わっぱ飯 田舎家
新潟市中央区古町通9番町1457
tel.025-223-1266



◎割烹 たなか
新潟市中央区沼垂東2丁目11-32
tel.025-247-1256



◎天ぶら はせ川
新潟市中央区万代5丁目3-22
tel.025-248-8920



◎居酒屋 鮭や
新潟市中央区笹口1丁目18-11
tel.025-249-5288



◎手料理ほのか
新潟市中央区古町通9番町1476
tel.025-223-6588

9/2 オプションツアー

18:00~21:00
集合 / NEXT21アトリウム
17:30集合
参加者 / 52名
会場 / 6カ所
厳正なる抽選によって、各会場を決めた

共通素材 / 夏のごちそう
◎もぎたて、ゆでたての枝豆大皿盛り
◎もぎたて、茄子料理



オプション企画-2

FGT48 ~ Future Generation 定員48名~

会場:古町安兵衛 参加者:40名



北前船の寄港地として栄えた古町地区で、若者世代による交流会を開催しました。各都市参加者の活動プレゼンなどにより熱気のある交流が行われ、会場が一体となって大いに盛り上がりました。

※FG=Future Generation(次世代の意味)

会場となった古町地区周辺は、江戸時代中期から明治時代にかけて日本海運で活躍した北前船が寄港し発展を遂げ、明治維新後には県都となり開化政策が積極的に進められました。また、日本三大芸妓の街として、京都の祇園、東京の新橋と並び称され、新潟古町芸妓が人々をもてなしている地区でもあります。今回のオプション企画2では、新潟を代表する文化のひとつである新潟古町芸妓にも参加してもらい、盛り上がり華を添えました。

このように開港地新潟を象徴する地区で、前回の長崎大会で初めて開催された若者世代での交流会を継承し、新潟ではFGT48と称して開催しました。

乾杯の後に歓談を挟み、各都市のプレゼンが行われました。函館市のレジェンド世代、里見さんは、五稜郭を舞台に町づくり、人づくりを市民創作により行っている「函館野外劇」について、同じく函館市の中村さんは、ICT(情報通信技術)を使って函館の地域課題を解決する「Code for Hakodate」について、横浜市の桂さんは、公共空間で開かれる誰もが参加出来る結婚式「open wedding」について、神戸市の永田さんは、若手店主たちが作る新しい街づくりのコミュニティ「コネクト神戸」について、長崎市の岩本さんは、斜面地・空き家活用団体「つくる」の活動について、同じく長崎市の平山さんは、長崎都市・景観研究所「null」の活動について、それぞれの活動を紹介していただきました。

新潟市からは新潟古町芸妓の結衣さんが、稽古やおもてなしの様子について、富山さんが写真を介した多世代交流「新潟今昔物語」について、プレゼンを行いました。

前回大会で出来たコミュニティとの再会を喜ぶと共に新たな出会いが生まれ、プレゼンへ熱い激が飛ぶなど会場は大いに盛り上がりました。150年前に北前船の寄港地として栄えた古町地区で活気ある交流が行われたことは、「歴史と未来がつながる開港150周年」のテーマにふさわしい新たな船出へとつながる企画になったのではないのでしょうか。



函館市 里見さん



函館市 中村さん



横浜市 桂さん



神戸市 永田さん



長崎市 岩本さん



長崎市 平山さん



新潟古町芸妓 結衣さん



新潟市 富山さん



FG(若者)会議

9月3日(日)9:30~10:30 会場:Sea Point Niigata 参加者:15名

【概要】

FGとは、Future Generation の略であり、次世代という意味です。開港5都市の次世代を担う個性豊かな若者が集い、新潟の海辺で大会の振り返り、今大会で感じたこと、今後の展望などについて話し合いました。

前日のオプション企画2(FGT48)で盛況な交流が行われていたこともあり、和気あいあいと活発な意見交換が行われました。前回の長崎大会で生まれたオプション企画2と共にFG会議が継承されたことは、今大会における大きな成果であり、Tシャツ作成や鯛車など前回の話し合いで出たアイデアが実現に至った例もありました。今大会で再会を喜ぶと共に新たな出会いが生まれ、若者世代の交流が促進され、世代間交流の方策を探るなど、さらなる発展を期待させる会議となりました。

9/3 FG(若者)会議

行政会議

代表者会議

全体会議Ⅱ

振り返り

- 準備、ホスピタリティが素晴らしい
- FGが引き継がれた
- 公募委員の取組成果が出ていたのでは
- 川が間近まで迫っていて驚いた
- Tシャツ良いデザイン
- 結衣さん(古町芸妓)のことは一生忘れません

今後

- 情報交換していきたい
- 函館につなげたい
- レジェンドと絡みたい
- 全体会議Ⅰの議論テーマを決めたら



行政会議

9:20~9:50 会場:新潟商工会議所会議室 参加者:10名

大会の裏方の行政職員同士の情報交換を行いました。

代表者会議

10:00~10:50 会場:新潟商工会議所会議室 参加者:17名

代表者会議では、新潟大会の大会アピール文や次回開催都市について協議し、函館市が次回開催都市として正式に決定しました。



全体会議Ⅱ

11:00~12:00 会場:Befcoばかうけ展望台 参加者:60名

全体会議Ⅱでは、新潟大会の報告として各分科会での報告、大会アピールの採択、次回開催都市である函館市への大会旗の引き継ぎが行われ、三日間に及ぶ新潟大会が無事に終了しました。

- 1 開会
- 2 各分科会報告
 - 分科会1 歴史都市新潟研究会 杉山 節子
 - 分科会2 万代シティ商店街振興組合 齋藤 正行
 - 分科会3 公募委員 品田 泰
 - 分科会4 にいがた花絵プロジェクト 上杉 知之
- 3 FG会議報告
 - 新潟市 まちづくり推進課 西野 廣貴
- 4 代表者会議報告
- 5 大会アピール
- 6 大会旗引き継ぎ
- 7 次回開催地代表者あいさつ
 - 函館の歴史的風土を守る会 会長 佐々木 馨
- 8 閉会



開港5都市景観まちづくり会議 2017新潟大会

大会アピール

開港150周年をまぢかに迎える新潟で、開港5都市景観まちづくり会議が開催された。

「語り合おう港への想い」～歴史と未来がつながる開港150周年～をテーマに3日間、秋の雰囲気を感じ始めたここ新潟の地で、幕末から維新へと激動の歴史の中で開港し、それぞれ固有の文化を創造してきた5都市の市民が、集い・熱き思いを語り合い・友情を深め、23回の歴史を重ねた。

1993年「景観会議」として神戸に灯った友情の火は、阪神大震災という継続が危ぶまれる危機も乗り越え、さらに「景観まちづくり会議」として発展し、20年以上たった今も燃え続けている。1858年開港地に選ばれるという共通の記憶を持つ5つの都市の市民が、お互いの歴史・文化・景観まちづくりを学び合い、理解し、刺激をうけ、時に協力し合いながら、それぞれのまちづくりに力を尽くしてきた。そして、前回の長崎大会では、各都市の景観まちづくりを次の世代に継承していくことが宣言された。

2017新潟大会においても、長崎で生まれた流れを引き継ぎ、若者同士が交流する場(FGT48、FG会議)を催した。

都市ごとの次世代への継承はもちろん、これまで築いてきた5都市の友情も次の世代に継承していくことを改めて確認し、ここに宣言する。

2017年9月3日
開港5都市景観まちづくり会議2017新潟大会
参加者一同

公募委員インタビュー

今回の新潟大会では、長い大会の歴史の中でも初となる「公募委員」を一般市民の皆様から募り、実行委員会として参加していただきました。これまで景観まちづくり会議をけん引してきた市民団体に加えて、新たな人材が加わり、景観まちづくり会議の歴史に新しい風を吹かせることができました。景観まちづくりというテーマのもとに集まった個性豊かな皆さんに、本大会に参加していただいた感想を伺いました。

相田 幸一さん

公募委員として参加しましたが、この会議は私が新潟市都市計画課の係長になって2年目の年に長崎市から「新潟市も参加しませんか」とのお誘いを受け、当時はあまりネットワークの無かった私が、本間龍夫さんや栗間道夫さんなどにお誘いし長崎の1回目の会議に参加したのが新潟のこの会議の始まりです。あれから四半世紀経った今も続けられ、回を重ねるごとに新たな挑戦が試みられていることに改めて敬意を表し、さらには5都市の市民力の凄さを誇りに思っています。今回も、この思いをさらに強く感じた会議でした。お誘いいただいた方々に感謝！！

池田 博俊さん

私とこの大会との繋がりには2006年長崎から始まります。行政の立場で二週り参加した中で、出逢い、心を通わせ、まちへの想いを共有した5都市の仲間は数知れませんが、行政の立場を超えた人間的、同志的な繋がりでした。行政を離れた今回ですが、新潟へ集まる仲間を心をこめて迎えたいという気持ちで参加しました。旧い仲間、新しい仲間と楽しく、有意義な交流の時間を過ごすことができました。来年の函館もぜひ参加したいと思えます。

内山 航さん

新潟市には信濃川をはじめとする豊かな水辺空間がありながらも、それを活かしていないのではないかと疑問を持っていました。今回はこの開港5都市景観まちづくり会議が開催されるということで150周年を迎える新潟市をアピールできるのではないかとこの想いがあり、参加させてもらいました。各都市からたくさんの方をお招きし、一生懸命新潟をアピールし、またさらに新潟を好きになってもらえるようにたくさんの方を紹介しました。新潟を伝えてみて感じることはやっぱり新潟はサイコーです！実行委員会の皆さん、ありがとうございました！

加藤 雅之さん

公募委員として1年間委員会に参加し大会の企画運営に携わらせていただきました。委員の皆様のおかげで新潟らしい素敵なおもてなしの詰まった大会となり来訪者からは絶賛の声を聞くばかりでした。その場で味わえたこととまちづくり意識の高い参加者と多くの出会いができたことに感謝しております。公募委員ばかりで運営した分科会3も、品田リーダー牽引のおかげで滞りなく開催でき力ながらお手伝いできたかとも思っております。

とても学び多き有意義な経験となりました。委員会・大会を通して交流させていただきました皆様おひとりおひとりに御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

河本 さとみさん

開港5都市でありながら他の4都市とは港周辺の「景観」的要素を異にする新潟。開港からの歴史に思いをはせながら、この会議に参加させていただき、4都市の方々や地元新潟で暮らす人々との交流を軸に、現代の「まちづくり」を考察するよい機会となりました。

先月、(開港5都市ではありませんが)大阪では開港150年イベントで3隻の帆船に加え練習船が一堂に寄港するなど、港の風景として素晴らしい催しが開催されました。新潟の150周年イベントにも大いに期待するところです。

栗山 靖子さん

今回公募委員として友人から誘われて参加させて頂きました。このような会があることをまったく知りませんでしたので、行政と民間が知恵を出し合っ5都市と交流していることは本当に素晴らしいと感じています。全体会議の進行、ウェルカムパーティーでの5都市の方々との交流と楽しい時間でした。参加されている方々のフレンドリーさがこの会の持ち味と強く感じました。次回もお手伝いしたいと考えています。

小紫 真由美さん

このたび参加させていただいたことの一歩の収穫はそれぞれのフィールドで、新潟のまちづくりを真剣に考え、活動している皆さんとご縁をいただいたことです。以前から、「新潟のまちを、市民にとって住みやすい街にしていきたい」という思いを持っておりましたが、今回、同じような思いを持ちながら、抜群の企画力、行動力を発揮している皆さんと一緒することで、視野が広がり、自分に出来るまちづくりの形が、見えてきたように思います。また、他の都市でまちづくりに最前線で取り組む皆さんとは分科会やパーティーを通じ、大いに学ばせていただきました。一方で公募委員とコメンターとして経験値に大きな差があったこと、市民への告知不足は課題かと思いました。最後に、今回お世話になった皆様から心からの御礼申し上げます。ありがとうございました。

品田 泰さん

語り合われた港への思いが起す化学反応を目の当たりにし、圧倒された3日間でした。新潟湊が開港150周年を迎えるにあたり、歴史や展望、未来を様々な角度から学びたい、と考え、門戸を叩かせて頂いた今回の実行委員会。まさかの分科会リーダー拜命も、多くの実行委員・公募委員の皆様のご協力のおかげで何とか終えることができました。途中自分がなぜここに今携わっているのか解らなくなる瞬間もありましたが、今はただただ頂いた刺激と皆様との素晴らしい出会いに感謝する次第です。本当にありがとうございました。

高橋 章三さん

今回何も解らない中公募で参加させて頂き、新潟大会をいかに盛り上げて開港5港のお客様を迎え、もてなしをするか各分科会でテーマ作り、行政の方が話し合いが出来て大変勉強になりました。又、ウェルカムパーティーでは他県の方々との身近なお話が出来、大変参考に成り有意義で楽しい3日間でした、ありがとうございます。

山川 隆義さん

異業種で個性豊かな方々をまとめ、新潟大会を成功に導いた事務局と役員の方々との段取りと遂行は素晴らしい、参考になった事。そして、普段知り合う機会がない方々と交流ができた事はとても良い人生経験となった。文化交流に留まらず、大会で得た貴重な情報や意見を行政に反映して行くことで、更に良いイベントになると思われる。

山下 京子さん

まちづくりに興味があり、内容も良く分からないまま応募しましたが、何回か会議をするうち、当日5都市の方をお迎えするのが待ち遠しくなりました。当日は、4都市と新潟のメンバーの方たちの話が弾んでいた一方で、公募委員ももっと交流できる仕組みがあると良いと思いました。

分科会1では、密度の濃いまちあるきで4都市の方はもちろん、私も知らないこともあり、とても勉強になりました。オプション企画は新潟の方がほとんどで、4都市との交流ができなかった点は課題かと思いました。また、お揃いのTシャツはインパクトがあり、良かったと思います。

最後になりましたが実行委員の皆さん、ご苦労さまでした。そしてお世話になりました。ありがとうございました。

山田 洋子さん

開港5港景観まちづくり会議9月1日から3日、開港5港の皆さんがとても開放的で明るいのが印象的でした。誰とでもフレンドリーですぐお友達になれました。そして分科会の多彩なこと、新潟には人材がいるのだと改めて感じました。私は第1分科会に参加したのですが、何度も下見をしたり打ち合わせをしたりと大変でしたが、当日は皆さん大変感動し喜ばれて帰られたことを思うと、私たちもやりがいのあった満足感でいっぱいです。今度はぜひほかの都市の開催にも立ち会えたらと思いました。

開港5都市景観まちづくり会議の沿革

回	開催年	開催都市	大会テーマ
第1回	1993年8月	神戸	坂のまちと旧居留地
第2回	1994年10月	長崎	市民主導のまちなみ・まちづくり
第3回	1996年2月	新潟	港といっしょになった都市、一体となった都市って何だろう? 新潟らしさの提案
第4回	1996年10月	函館	北の開港都市に民の系譜を探る
第5回	1997年10月	横浜	開港都市の伝統・文化を活かした街づくり
—	1998年10月	神戸	【代表者会議】
第6回	1999年10月	神戸	開港都市の未来(あした)を探る ~共生する地域文化~
第7回	2000年10月	長崎	開港都市の遺伝子を伝える ~長崎から21世紀に発信する都市文化の創造~
第8回	2001年8月	新潟	水都(みなと)にいがた夏!! ようこそ ~新世紀の開港都市文化を暑い暑い新潟で語り合う~
第9回	2002年10月	函館	北の国からのメッセージ いいばや「港・まち並み」考えよう
第10回	2004年3月	横浜	150年の歴史とにぎわいづくり
—	2004年12月	神戸	【代表者会議】
第11回	2005年10月	神戸	開港都市のさらなる飛躍 ~明るく、元気!~
第12回	2006年9月	長崎	開港によってもたらされた文化と歴史の継承
第13回	2007年11月	新潟	田園と港が会うまち、政令指定都市・新潟で語り合おう 実りの秋にいがたへ来なせや
第14回	2008年10月	函館	新・函館探訪 ~呼吸(いき)づくまを未来へ繋げ~
第15回	2009年9月	横浜	150年の贈りもの ~新たな旅立ちへ~
第16回	2010年10月	神戸	共生のまちづくり ~時間・空間・文化を超えて~
第17回	2011年11月	長崎	愛・絆・希望 5港の祈り ~長崎から~
第18回	2012年10月	新潟	新潟の「らしさ」を求めて ~過去・現在・未来へのつながり~
第19回	2013年9月	函館	再発見!“ひと”と“まち”をつなぐもの ~開港と食とラボ~
第20回	2014年10月	横浜	開港5都市の未来 これからもココから
第21回	2015年11月	神戸	開港都市からの発信 ~わたしたちのまちづくり~
第22回	2016年11月	長崎	継承と発展 ~次の世代の景観まちづくり~
第23回	2017年9月	新潟	語り合おう港への想い ~歴史と未来がつながる開港150周年~

開港5都市景観まちづくり会議規約

(名称)

第1条 本会議の名称は、「開港5都市景観まちづくり会議」(以下「景観まちづくり会議」という)と称する。

(目的)

第2条 景観まちづくり会議は、安政5年に開港港に指定された函館、新潟、横浜、神戸および長崎の5都市(以下「開港5都市」という)の市民が景観、歴史、文化、環境などを大切に守り、愛着をもってそだて、個性豊かで魅力のあるまちづくりを行うため、相互に交流を深め、課題を協議し、開港5都市のまちづくりの推進に資することを目的とする。

(活動)

第3条 景観まちづくり会議は、前条の目的を達成するために次の活動を行う。

- (ア) 情報の交換
- (イ) 共通の課題に対する調査研究
- (ウ) その他、前条の目的達成に必要な活動

(組織)

第4条 景観まちづくり会議は、開港5都市のまちづくりを実践する市民団体等で構成する。

- 2 必要に応じ、関係諸機関、団体等の参加を求めることができる。

(会議)

第5条 景観まちづくり会議の会議は、定期大会および代表者会議とする。

- 2 定期大会は、原則として年1回会長が招集し開催するものとし、代表者会議は、会長が必要に応じて招集することができる。

(役員)

第6条 景観まちづくり会議に会長を置く。

- 2 会長は、定期大会開催都市の実行委員会又はまちづくりを実践する市民団体等の代表者をもって充てる。
- 3 会長は、本会議を代表し、会務を総理する。
- 4 役員任期は、定期大会終了から次期定期大会終了までの間とする。

(事務局)

第7条 景観まちづくり会議の事務局を会長都市の実行委員会またはまちづくりを実践する市民団体等に置く。

(規約の改正)

第8条 本規約の改正は、景観まちづくり会議の代表者会議の議決によらなければならない。

附則 本規約は、平成11年10月11日から施行する。

ウエルカム港街

作詞／小林直司 作曲／森本利

古い映画をみるような
歴史のロマンかおる街
この道をまた歩いてみたい
扉あければウエルカム
この街で
あなたもどうぞ珈琲を
函館 横浜 神戸 長崎 ウエルカム
ウエルカム ようこそ 新潟

はらかな沖の白い船
日本と世界つなぐ海
この丘をまた歩いてみたい
肩をたたけばウエルカム
この街で
あなたもいかがピアノ曲
函館 横浜 神戸 長崎 ウエルカム
ウエルカム ようこそ 新潟

輝く未来降るような
あなたと私つなぐ星
この街をまた歩いてみたい
乾杯すればウエルカム
この街で
もひとついかがバーボンを
函館 横浜 神戸 長崎 ウエルカム
ウエルカム ようこそ 新潟

2012年 新潟大会制定



開港5都市景観まちづくり会議 シンボルマークについて

開港5都市景観まちづくり会議のシンボルマークは、5都市にちなみ5つの帆が風を受けて広がっているイメージです。5つの色は、緑(自然生物)、ピンク(愛)、青(海と空)、黄(コミュニケーション)、紫(文化)を表し、5つの開港都市を示しています。

2001年 新潟大会制定 design by Yukihiko Oyanagi

参加団体

◎函館市

函館の歴史風土を守る会
函館市伝統的建造物群保存会
函館観光ボランティア會の会
Code for Hakodate
北海道教育大学函館校

◎横浜市

スマートイルミネーション横浜実行委員会
日本大通り活性化委員会
株式会社エイバンパ
NPO法人横浜シティガイド協会
公益社団法人神奈川大場地域活性化推進協会
横浜市役所
山下後援通り会
馬車道商店街協同組合
ミズベリング横浜西口
子育て支援まま力の会

◎神戸市

北野・山本地区をまもり、そだてる会
旧居留地連絡協議会
南京町景観形成協議会
新長田駅北地区東部いえなみ委員会
三宮中央通りまちづくり協議会
神戸元町商店街まちなみ委員会
有馬まちなみ景観委員会
もとまちハーバー懇親会
(株)地域問題研究所

◎長崎市

十善寺地区まちづくり協議会
三ツ山町犬継地区まちづくり連絡協議会
大浦青年会
長崎都市・景観研究所
斜面地・空き家活用団体つくる
NPO法人長崎コンプラドール
長崎県屋外広告美術協同組合

主催:

開港5都市景観まちづくり会議2017
新潟大会実行委員会

構成団体:

サンクプロム石山商店街協同組合
協同組合新潟あきんど塾
にいがた花絵プロジェクト実行委員会
NIIGATA光のページェント実行委員会
万代シテイ商店街振興組合
新潟学の会、ユニバーサルカラープランナー協会
NPO法人にいがたエキナカン会
新潟市景観ネットワーク個人会員
NPO法人新潟水辺の会
歴史都市新潟研究会
公募委員
新潟市

後援:

志民委員会 N-vision プロジェクト
開港150周年記念事業実行委員会
新潟商工会議所
ミスベリングやすらぎ提研究会
路地連新潟
(公財)新潟市芸術文化振興財団
みなとびあ 新潟市歴史博物館
旧齋藤家別邸
砂丘館
沼垂テラス商店街
北前船の時代館 旧小澤家住宅
人情横丁(本町中央市場商店街協同組合)
国土交通省 北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所
新潟県
新潟日報社
朝日新聞新潟総局
毎日新聞新潟支局
読売新聞新潟支局
産経新聞新潟支局
日経新聞新潟支局
時事通信社新潟支局
共同通信社新潟支局
新潟建設工業新聞社
建設速報社
日刊建設工業新聞北陸総局
BSN新潟放送
N S T
TeNYテレビ新潟
UX新潟テレビ21
NCV新潟センター
エフエムラジオ新潟
FM PORT
FM KENTO
ラジオチャット・エフエム新津
エフエム角田山(ほかほかラジオ)

ウエルカムパーティー提供酒蔵

朝日酒造(株)、石本酒造(株)、今代司酒造(株)、
(株)越後酒造場、(株)越後伝衛門、越の華酒造(株)、
塩川酒造(株)、高野酒造(株)、(株)DHC酒造

お問い合わせ／

開港5都市景観まちづくり会議2017新潟大会実行委員会事務局

(新潟市都市政策部まちづくり推進課内)

〒951-8550 新潟市中央区学校町通1-602-1

TEL.025-226-2716 FAX.025-229-5150 E-mail:machisui@city.niigata.lg.jp